

海外だより  
ドイツ留学体験記（４）

木 村 理

胃 と 腸

第27巻 第12号 別刷  
1992年12月25日 発行

*Stomach and Intestine (Tokyo) Vol. 27 No. 12 1992 IGAKU-SHOIN Tokyo Japan*

医学書院

## ドイツ留学体験記(4)

東京大学第1外科

木村 理

### Alexander von Humboldt (AvH) Stiftung (アレクサンダー・フォン・フンボルト財団)

Humboldt 財団は、探検博物学者 Alexander von Humboldt (1769-1859) にちなんで 1860 年に創設され、戦後 1953 年に以下に示す理念のもとに再設立された研究奨学金制度を司る団体である。

*„Zweck der Stiftung ist es, wissenschaftlich hochqualifizierten Akademikern fremder Nationalität ohne Ansehen des Geschlechts, der Rasse, der Religion oder Weltanschauung durch die Gewährung von Forschungsstipendien und Forschungspreisen die Möglichkeit zu geben, ein Forschungsvorhaben in der Bundesrepublik Deutschland durchzuführen, und die sich ergebenden wissenschaftlichen Verbindungen zu erhalten.“ (§ 2 der AvH-Stiftungsurkunde)*

“Humboldt 財団の目的は、外国の高い質を持った科学者たちを、性、人種、宗教、あるいは世界観によって差別することなく、研究における奨学金や賞を与えることによって可能性を与え、ドイツ連邦共和国における研究計画を実行し、そこから生じた相互の科学的な関係を維持していくことである。”(アレクサンダー・フォン・フンボルト財団規約から)

応募者の年齢は 40 歳までである。1953~1990 年のフンボルト奨学生は 11,830 人にのぼる。日本からの奨学生は、1,543 人と最も多く、アメリカ 1,316 人、インド 899 人、ポーランド 861 人と続く。1990 年に在独していた日本からの奨学生は 101 人(延長者も含む)で、医学関係者は 39 人と他の分野に比べ最も多い。全世界的には医学関係者は 10% である。日本人 101 人のうち新規に渡独したのは 41 人で、応募者に対する割合は 44% と比較的高い。1990 年における全世界の応募者 2,534 人のうち合格したのは 616 人、24% である。ちなみに 1989 年は全世界で 19% であった。

最近の傾向で以前と最も異なるのは、東欧系の国々からの応募者が東西の政治的な雪解けによって非常に増加していることである。ちなみにソ連からの応募者は 1986 年に 7 人であったのが、以後 12 人、50 人、148 人と増加し続け、1990 年には 254 人に達している。1990 年における日本の合格者 41 人はソ連(94)、アメリカ合衆国(65)、中国(58)、ポーランド(52)に次いで 5 番目である。

フンボルト奨学生は、一言で言えば上臈据臈の待遇をドイツ連邦共和国から受ける。奨学生のための催し物も多い。ボンでは年に 1 回、4 日間にわたって家族大会が催される。1990 年には、奨学生 542 人、配偶者 356 人、子ども 369 人が集まった。コンサート、ライン下りなどが催されるが、中でも圧巻は、ヴァイツェッカー大統領公邸への招待、そして大統領夫妻との会見である。私も 2 言 3 言、言葉を交わす機会を得ることができた。



ヴァイツェッカー大統領と言葉を交わす光栄を得た筆者。



ヴァイツェッカー大統領に肩をたたかれる筆者の二男。

## Mehr aus dem Osten

Reu. Noch nie haben sich so viele ausländische Nachwuchswissenschaftler um ein Forschungsstipendium in der Bundesrepublik beworben wie 1989. Das ist auf die rasch steigende Zahl der Kandidaten aus Osteuropa zurückzuführen. Zum erstenmal hat die Alexander-von-Humboldt-Stiftung Wissenschaftlern aus der Sowjetunion mehr Stipendien bewilligt als deren Konkurrenten aus den Vereinigten Staaten. Das ist erfreulich und bedauerlich zugleich. Freuen darf man sich über den qualitativ wie quantitativ verbesserten Austausch mit der Sowjetunion, Polen, Ungarn und der Tschechoslowakei. Begonnen hat er schon vor den politischen Umwälzungen. Sicher hat er ein liberaleres Klima herstellen helfen; nicht von ungefähr gibt es neuerdings in den meisten osteuropäischen Regierungen Humboldt-Stipendiaten. Traurig ist dagegen, daß die Zahl der Bewerber aus den Vereinigten Staaten und Japan gesunken ist. Das wird damit zusammenhängen, daß ein Humboldt-Stipendium zwar dem Ansehen schmeichelt, aber schlechter dotiert ist als die Forschungsstipendien vieler anderer Nationen und Institutionen. Für ihre neuen Aufgaben braucht die Stiftung mehr, für ihre alten höhere Stipendien.

(Frankfurter allgemeine 1990. 5. 22)

自己主張が強く、自信満々ではあるものの、ヴァイツゼッカー大統領には心から畏敬の念を抱いているドイツ人にこのときの写真をみせると、“おれはまだ大統領に招待されたことはない”と言って小さくなってしまふ。

ゲッティングンでの奨学生大会(2泊3日)では、高級ホテルに滞在し、最も良いレストランでの食事、コンサートや大学の見学が企画されていた。また、現在所属している研究室やドイツ生活の問題点(住居あるいは子供の学校、幼稚園など)など、あらゆる点について、問題がないかなどを1人ずつ聞き、アドバイスを与える場が設けられている。

3週間にわたってドイツ国内をバス見学する study

tourも催され、“ドイツ人以上にドイツを知る”機会も与えられる。1990年には、221人の奨学生、147人の配偶者がこれに参加した。11台のバスがドイツ国内を走り回るのである。全世界からの科学者たちとすごしたこの3週間は何より印象深く、思い出に残るものであった。

フンボルト奨学金は妻への手当を含めて月3,600マルク(1マルク80円、物価が安いので実質1マルク100円)、またドイツではKindergeldと称して第1子に100マルク、第2子に50マルクが市町村から毎月支給され、しかも奨学金には税が掛からないため、結局手取り37万円相当の給料をもらえることになる。その他、往復の旅費、語学研修費、ボンのフンボルト大会への家族招待費、学会出張費なども出してくれる。見返りに要求されるのは最後に簡単なアンケートに答え、ドイツ生活の感想を紙1枚に書くだけである。

### 東からより多く

1989年ほど多数の外国からの青年科学者が、ドイツにおける研究奨学金制度(AvH)に応募してきたことはなかった。これは、東欧からの応募者の数が急激に増えたことに原因がある。今回はAvHはソ連からの学者をアメリカからの学者よりも多く受け入れた。これは喜ばしいことであると同時に遺憾なことでもある。ソ連、ポーランド、ハンガリー、そしてチェコには女性にも量的および質的に、より良い機会を与えた。既に政治的変換を始めたのである。自由な空気の回復を助けるのは確実である。とりわけ、ほとんどの東欧のフンボルト奨学生にとってはそれが必然のものとなるだろう。アメリカと日本からの応募者の数が減っているのは悲しむべきことである。これはフンボルト奨学制度が、その名声にもかかわらず、他の多くの国々や研究所に比べて奨学金を十分に与えないからであろう。その新しい任務のためにはより多くの基金を必要とする。かつてのより高尚な奨学制度のために。(Frankfurter allgemeine 紙, 1990. 5. 22)

これは1990年5月に、ドイツで最もよく読まれている新聞の1つであるFrankfurter allgemeine 紙にのった記事である。日本からの応募者数の減少を嘆いている。私がボンのフンボルト本部を訪れたときも、日本からの応募が減っている理由をしつこく尋ねられた。ドイツにおける研究レベルもかなりのもので、何よりも海外で生活するというのは何物にも代え難い貴重な経験となる。ドイツ留学を希望する人は積極的に応募してみたらよいと思う。